

篠原幸雄からやましたゆきおへ

# マンガと生きた50年

21

編集プロダクション

「ワークハウス」設立



ネット配信版・新つれづれ草に掲載の「マンガと生きた50年」は、東京都江東区・森下文化センターにて2017年10月20日(金)から29日(日)の会期で開催しました。新つれづれ草マンガ展「篠原幸雄からやましたゆきおへ マンガと生きた50年」で展示した展示物を再構成したものです。

**おやしマンガ同人誌**

**つれづれ草**

# マンガ展

篠原幸雄からやましたゆきおへ

## マンガと生きた50年



入場：無料

おやしマンガ同人誌「新つれづれ草」の山下幸雄は1970年少年ジャンプから篠原幸雄としてマンガ家デビューその後、マンガ家、デザイナー、編集者としての立場を変えながらマンガとの関わりを持ち続けて生きてきた。そして今再び、やましたゆきおとしてマンガを描き始めた！

イラスト：篠原幸雄  
(著者少年ジャンプと週刊少年マガジン(著者)の許可を得て)

**日時：10月20日(金)～10月29日(日)**  
午前9時より午後9時まで(最終日は午後5時まで)

**会場：森下文化センター1F展示ロビー**  
**お問合せ：森下文化センター**  
〒135-0004 東京都江東区森下3-12-17  
TEL03-5600-8666 FAX03-5600-8677  
都営地下鉄新宿線・大江戸線「森下」駅A6出口より徒歩8分  
都営大江戸線・東京メトロ半蔵門線「清澄白河」駅A2出口より徒歩8分  
<http://www.kcf.or.jp/>

主催・新つれづれ草 共催・森下文化センター



森下文化センター



# 21、編集プロダクション 「ワークハウス」設立

**自分の仕事ができる場所が欲しかった**

結婚して夫となり、子どもが産まれて父親となつた。

社会人として大人として男として、責任を果たすだけの稼ぎを得ることが出来るだろうか。家族を得た、そんな状態になっても私には、何ひとつ自信を持つことができなかった。

今頂いている仕事も来月は無くなるかも知れない。不安の中で、がむしゃらに頂いた仕事を、するようになる気持ちでやり続けていました。

銀英社を辞めた後、自宅の北側に有る5帖程の部屋で仕事を再開しました。

銀英社でやっていた仕事と自分のチームメンバーと最低限の機材を5帖の部屋に詰め込んで、すしずめ状態での再スタートでした。

企画編集の相棒のKoiくんや、デザインのアシスタントのAkさん等と一緒に仕事をしてくれて、その上、仕事関係の人が頻繁に出入りする状態は、妻と幼い子どもの生活に大きな負担をかけてしまっていると感じました。

私は、自宅から外に出て別に仕事ができる場所

が必要だと考える様になりました。

飯田橋駅から九段下方向へ少し行った所の、自  
転車屋さんの2階に十坪程の小さな事務所を借り  
ました。場所を飯田橋にしたのは、私の自宅と相  
棒のKoiくんの家の中間点がいいと思ったか  
らでした。

九段下近くのハンコ屋で会社の実印とゴム印の  
セットを作り、九段下近くの千代田区の登記所で、  
有限会社として会社を登記しました。

社名は「Workhouse」としたかったのですが、  
会社名はアルファベットではダメと言われ、「ワー  
クハウス」としました。

自分の働く場所という意味でした。

今になって思い返して見ると、銀英社をやめて  
自宅で仕事を始めた時に、仕事を一人で出来る量  
に減らして、家事と育児の時間を作るという選択

肢もあつたのだと思います。しかし、当時の私には、  
男として家族を守るだけの収入を得る、それが自  
分のやらなければいけないことだと信じていまし  
た。

ただひたすら仕事を増やすことだけを考えてい  
たのです。

## 有有限会社ワークハウス設立

デザインから企画編集まで引き受けるように  
なつて、1983年5月、飯田橋の自転車さんの  
2階に編集プロダクション「ワークハウス」を設立。  
勁文社の大百科シリーズ、徳間書店のテレビラ  
ンドわんぱくシリーズ、小学館の特撮絵本やサ  
ンデーグラフィック、アニメコミックつる星やつ  
ら等、頼まれる仕事は断らずに全て引き受けまし  
た。

特に記憶に残っているのは、勁文社の大百科シ



リーズの「忍者・忍法大百科」。取材してきた写真  
をストーリー仕立てで、マンガの「コマのイメージ  
で並べて、「フォトストーリー」という企画を載せ  
ました。今では普通に使われる表現手法ですが、

マンガと記事の融合は初めての企画だったと思い  
ます。大百科ではその後、度々その手法を使いま  
した。



大百科シリーズ  
「忍者・忍法大百科」  
(勁文社発行)  
フォトストーリーで  
忍者同士の戦いと  
忍者屋敷を紹介

